

## 拠点大学の概要及び採択理由

機 関 名	立 命 館 大 学			
[国際化拠点の構想の概要]				
<p>立命館学園は、日本国においていち早く本格的な国際大学である立命館アジア太平洋大学（APU）を平成12年に開学した。APUは日英二言語教育、学生・教員の半数を外国人とすることを基本コンセプトとし、平成20年5月1日時点で世界81国・地域から2,644名の留学生を受け入れ、日本国で第1位の留学生受入数となっている（立命館大学は1,119名で全国第12位）。立命館学園は「国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する」（「立命館憲章」）を使命としており、APUでの経験と実績を最大限活かし、立命館大学を4000名超の留学生を受け入れる国際化拠点として展開することにより、「留学生30万人計画」の達成にむけた牽引役を果たす。</p>				
<p><b>1. 立命館大学・国際化拠点構想の目標</b> <span style="float: right;">※は在留資格が「留学」の者の数値</span></p>				
目 標	受入留学生数	留学生比率	外国人教員比率	日本人学生海外派遣数
<b>平成32年(2020年)</b>	<b>4,005人</b>	<b>11.3%</b>	<b>15.0%</b>	<b>2,400人</b>
平成20年(2008年)	1,119人※	3.1%	9.9%	1,517人
<p><b>2. 留学生受入のための教育プログラム</b></p> <p><b>(1) 英語のみで学位取得可能なコース(平成24年度までに2学部2コース、2研究科に3コースを新設)</b>          (新設)国際関係学部、政策科学部、テクノロジー・マネジメント研究科(修士/博士)、政策科学研究科(博士)          (既設)経済学研究科(修士)、国際関係研究科(修士)、政策科学研究科(修士)、理工学研究科(修士2コース/博士)</p> <p>英語のみで学位取得可能なコースは合計で11コース（2学部2コース、5研究科9コース）となる。</p> <p><b>(2) 教育の質保証</b>          GPAによる成績管理（奨学金の選抜等に活用）、システムによる履修上限単位の設定・管理、シラバスのオンライン化とシラバスで提示される成績基準、成績疑義照会制度の運用、15週授業の厳格実施などの教育の質保証システムは既に構築しており、国際水準の留学生受入増加により、その運用レベルを国際水準化することを目指す。また、カリキュラム・テキスト開発・研究等も進める。</p> <p><b>3. 留学生受入環境の整備</b></p> <p><b>(1) アドミッション・海外拠点整備</b>          APUの経験を活かし、海外拠点でのワンストップサービス、入学前に渡日せずに現地で入学許可ができる制度や海外直接推薦入試などを拡充する。また立命館学園が設置する既存の海外5拠点（カタール・韓国・中国（上海）・インドネシア・ベトナム）に加えて4拠点（イギリス・フランス・インド・中国（広州））を新設し、留学生募集活動を強化する。併せて教育研究交流や同窓会組織の強化も行う。</p> <p><b>(2) キャリア教育・就職支援</b>          就職率ほぼ100%の実績を持つAPUのノウハウを活用しつつ、英語基準・日本語基準両方の留学生の日本での就職支援を行うとともに、海外拠点や同窓会を通じて出身国での就職支援も行う。</p> <p><b>(3) 学生生活支援と受入環境の整備</b>          履修や生活に関する指導・相談・助言に関する人的体制を強化するとともに、日本人学生との交流をさらに活発化する。また、HPや図書館・情報基盤、保健センターや大学生協食堂などの施設標示や利用マニュアルなどの多言語化、日英二言語化を進める。</p> <p><b>(4) 日本語・日本文化教育</b>          既設の日本語教育センターの人的体制を強化し、留学生に対する日本語・日本文化教育を抜本的に強化する。英語基準で入学する留学生に対しても日本企業での就職が可能な日本語教育を行う。</p> <p><b>(5) 国際宿泊施設の整備・奨学金の拡充</b>          平成23年度までに350戸、平成32年度までに累積約1,000戸の国際宿泊施設を新たに整備するなど年次計画的に財政措置を行う。計画期間内に、日本人学生との混住、日常的な交流を通じた学びの場を提供する「Residential College(国際教育寮)」を構想する。留学生対象の奨学金も拡充する。</p> <p><b>4. 日本人学生の海外派遣促進策</b>          多様な留学プログラムによる派遣実績（平成20年度1,517名）を踏まえ、「入学→留学前準備→語学学習→海外派遣→帰国後学習→キャリア形成」の一連の教学システムを強化する。幅広い海外ネットワークを活用して、各種プログラムを拡大して平成32年度には2,400名の派遣を目指す（学部学生の約30%が在学期間中に一度は海外学修経験を持つこと目指す）。</p> <p><b>5. 教員・事務職員・組織の整備</b>          留学生受入増や英語のみで学位取得可能なコースの新設などに伴い教員・事務職員体制を人員数も含め強化する。また、高い教育研究実績を有する外国人教員や日英二言語で教育研究ができる教員の計画的任用を進めるとともに、教員には双方向型の教授法に関する研修を、事務職員には海外大学での研修などにより育成する。</p> <p>国際化を統括・推進する組織としては、設置済みの総長を責任者とした「国際連携本部」（APUを含めた学園全体の国際戦略の統括組織）のもとに、立命館大学の国際的な教学に責任を持った組織である「国際教育推進機構」（既設）とグローバル30を一体的かつ強力に推進するための「G30推進本部」（新設）を設置する。</p>				

# 【立命館大学】

国際化拠点の概念図(海外における留学を促進するための取組、国内における留学生の受入のための取組について、構想の達成目標と取組計画をわかりやすく図示してください。)



RITSUMEIKAN  
Asia Pacific University

**日本第12位の留学生受入(立命館大学)**  
世界47か国・地域から1,119名の留学生が在籍  
(在留資格が「留学」の者:2008年5月1日JASSO調査)

**日本第1位の留学生受入(APU)**  
世界81か国・地域から2,644名の留学生が在籍  
(在留資格が「留学」の者:2008年5月1日JASSO調査)

## Global Stage (国際社会での活躍)



## 世界に広がるネットワーク

### 立命館から世界へ

**海外協定校**  
(平成20年度→平成32年度)

**59か国・地域  
379校**

▼

**90か国・地域  
500校**

---

モビリティ(移動)の向上  
(平成20年度→平成32年度)

**共同学位  
プログラム数の拡充**

学部:4大学 ▶ 8大学  
修士:11大学 ▶ 20大学

---

**学生交換協定の拡充**

25か国・地域、108大学207名枠  
▼  
40か国・地域150大学300名枠

---

**協定大学への  
日本人学生派遣数の拡充**

1,517人 ▶ 2,400人

**国際教育プログラムの強化**

高度で実践的な外国語運用能力と国際教養の涵養による国際社会で活躍できる人材の育成

- 英語による開講科目の拡充
- 留学生と日本人学生の混成授業を展開
- 多様な海外留学プログラムの展開
- 課外講座の実施 ・ テキスト多言語化等の教育支援

---

**多文化交流キャンパスの実現**

留学生受け入れの多様なプログラムの展開

- 入門レベルから上級レベルまで
- 短期から長期まで
- 文化(歴史都市京都)から最先端技術まで(コンテンツの充実)

**生活面での支援**  
(国際宿舎施設・キャンパスの環境整備)

- 平成32年度までに約1,000戸の国際宿泊施設を整備
- 民間会社との契約により約500戸を確保
- 留学生と日本人が混住し、学びあう

**経済面での支援**

- 留学生対象の奨学金の拡充
- 入学時点で奨学金決定制度の拡充

---

**就学面・進路面での支援**

- 日本語・日本文化教育の強化
- 言語サポートの強化
- 教職員、学生団体による履修指導・相談体制の強化
- 英語基準留学生への就職相談体制の確立

**英語のみで学位取得可能なコースの拡充**

大学院6コースから学部2コース、大学院9コース(合計11コース)に拡充 9月入学に対応

**学部における新設2コース ( ) 内は設置予定年**

国際関係学部(平成23年)、政策科学部(平成23年)

---

**大学院における新設3コース ( ) 内は設置予定年**

テクノロジー・マネジメント研究科(修士)(平成24年)  
テクノロジー・マネジメント研究科(博士)(平成22年)  
政策科学研究科(博士)(平成23年)

---

**大学院における既設6コース**

経済学研究科(修士)、国際関係研究科(修士)  
政策科学研究科(修士)、理工学研究科(修士2コース)、理工学研究科(博士)

国際水準の留学生の増加による  
教育の質保障システム運用の高度化

**教育の質保証の強化**

- 厳格で透明性の高い成績管理
- GPAと連動したインセンティブ型奨学金や様々なプログラムの整備
- 体系的カリキュラムの整備と履修モデルの提示
- シラバスのオンライン化
- シラバスでの成績基準の提示と成績疑義照会制度の運用
- 双方向型授業の更なる展開
- 履修上限単位の設定とシステムによる管理

---

**優れた教員集団の形成 (Faculty Development)**

- 国際公募による優秀な教員の任用
- 国際水準化FDの取り組み
- 豊富な学外研究制度の継続実施

---

**事務職員の力量向上 (Staff Development)**

- 海外/国内大学院(学位取得)派遣制度
- 協定校での職員研修の拡充
- 大学幹部職員養成研修制度
- 各種語学研修制度の拡充

## 世界の留学生が立命館へ

**受入重点国(10か国・地域)**

中国 韓国 ベトナム アメリカ イギリス ドイツ フランス カナダ インドネシア インド

**海外拠点(4拠点を新設し合計9拠点到増)**

新設(4拠点):  
イギリス(ロンドン)・インド(ニューデリー)  
フランス(ストラスブール)・中国(広州)

既設(5拠点):  
カナダ(バンクーバー)・韓国(ソウル)  
インドネシア(ジャカルタ)・中国(上海)・ベトナム(ハノイ)

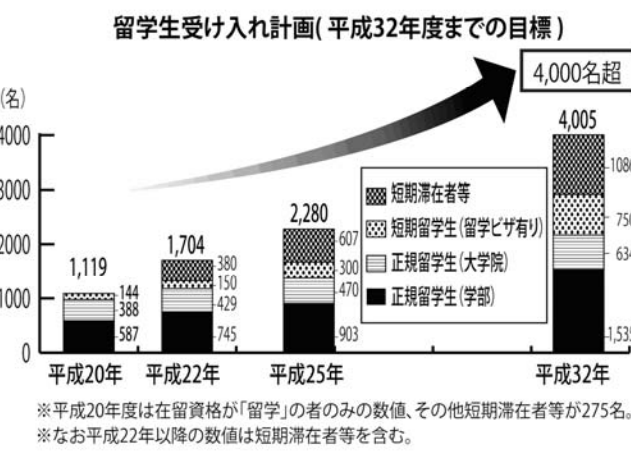
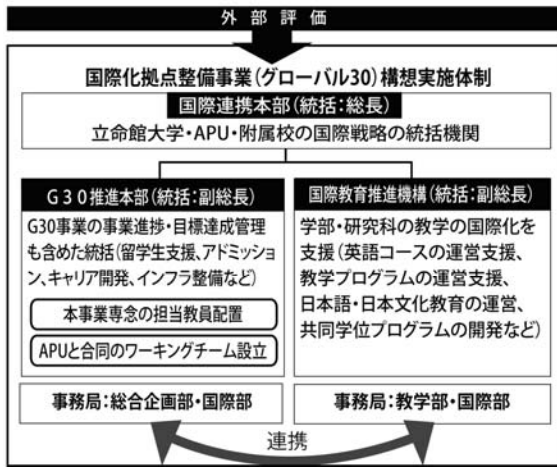
**海外拠点および受入重点国での活動**

- ワンストップサービスの提供
- 入学前に渡日せずに現地で入学許可ができる制度の構築 (APUでは留学生の90%以上が入学前に渡日せずに直接入学)
- 広報、現地でのネットワーク形成
- APUとの協働による留学生募集活動の実施
- 現地高校からの直接推薦入試の拡充(特に英語基準)
- 留学生の出身国・地域での同窓会(父母・校友会)支援など

**日本国政府、外国政府や海外大学との協働による正規留学生受入の拡充**

(実施中のプログラムの拡充および新規開発)

国費留学生優先配置プログラム、アジア人材資金構想、人材育成無償事業(JDS)、インドネシア・リンケージプログラム、中国政府派遣大学院留学生プログラム、マレーシア・ツィニング・プログラム、国際機関奨学金による受入(世界銀行、アジア開発銀行など)、海外大学との共同学位制度など



大 学 名	立命館大学
-------	-------

〔採択理由〕

立命館大学の大学としての国際戦略の下で留学生を大幅に増加させてきた実績や、留学生受入の体制整備や日本人学生の積極的な海外派遣の取組は、大学の特徴を生かし柔軟な国際化をめざすものとして高く評価でき、今後の留学生の受入の更なる充実が大いに期待できる。また、国際化拠点の整備のための構想は、渡日前の入学許可の導入や、幅広い分野への英語による授業のみで学位が取得できるコースの開設、奨学金制度の充実など、立命館アジア太平洋大学での多くの留学生受入の実績を踏まえつつ、実現性の高い計画となっており、我が国を代表する国際化拠点としての成果と今後の展開が十分に期待できる。

＜特に優れた点、期待できる点、留意すべき点＞

- ・大学の国際化推進の基本政策と本事業の構想が合致しており、来日後の留学生サポートのための非常に充実した教職員配置を行うなど積極性は高く評価される。
- ・国際インスティテュートや Japan and World Perspectives Program (JWP) など、海外留学と関連付けたプログラムを設けており、日本人学生の国際化の総合的な充実が期待できる。
- ・国際教育推進機構と立命館大学G30推進本部の役割分担など、実施体制についてより具体的に明示することが望まれる。